

An Introduction to a Scandinavian pollen flora. Grana Palynol. 2: 1-92.
 —, Praglowski, J. and Nilsson, S. 1963. An Introduction to a Scandinavian
 pollen flora 11. Almqvist and Wiksell, Stockholm. Hallier, H. 1921.
 Beitrage zur Kenntnis der Linaceae. 9. Die Humiriaceen. Beihefte Bot.
 Centralblatt 39, Abt. 2: 56-62, 174. Planchon, J.E. 1948. Sur la famille
 des Linnées. Hooker's London Journ. Bot. 6: 588. Winkler, H. Unterfam.
 IV, Humirioideae in Engler & Prantl, Die Natürlichen Pflanzenfamilien, 2
 Aufl. 19a, 106, 126-129, Figs. 58-59.

* * * *

フミリア科植物の 7 属に属する 25 をかぞえる種、亜種、変種の植物の花粉を研究した。この科と他の科との関連が論議されたが、花粉の形態からみてこの科は一つの独立したまとまった科である。本科の各属の関連を研究した。また花粉の開孔部の形態からみて進化した属を指摘した。

○メリケンムグラの新帰化地 (浅井康宏) Yasuhiro ASAI: On a new locality of *Diodia virginiana* L. as an alien weed in Japan

アメリカ合衆国原産の 1 年草であるメリケンムグラ *Diodia virginiana* Linnaeus, Sp. Pl. 104 (1753) は、最初、杉本順一氏によって岡山市福島に帰化したものに基づいて報告 (1969) された。筆者も同地方の植物研究家として夙に令名ある西原礼之助氏のご好意により、岡山県吉備郡一の宮の生育地を再度に亘って訪れ、向陽の水湿草地に完全に帰化し、極めて旺盛な生育を示しているのを実見した。本種は米名 Large button weed が示すように、全草が大形で、しかも狭長な花筒をもつ純白花をつける。なお西原氏によれば、該地における本種の存在は杉本氏の報告よりも、さらに古いもの由であった。

ところで筆者は最近、太田久次氏の三重県下での採集品を検定中、四日市で本種を採集 (1973 年 9 月 9 日) されているのに気付いたので、追加記録しておきたい。同氏からの書信によれば、やはりその生育地は向陽の湿性地である由である。従って本種は、既に我国の主に海岸の乾燥した砂地などに定着している近縁の *D. teres* Walter よりも、水湿地と云う比較的限定された生態条件を有するため、今後さらに生育地を拡げたとしても、例えば田畔などの局所的な帰化雑草となるに止まるものと思われる。終りに、種々ご援助いただいた西原、太田両氏に厚く御礼申上げたい。

(東京歯科大学)